



工房だより

～ペットのための自然食キッチンから～

2026年6月号
vol.97



今月の一枚

ココロちゃん

十二才
チワワ 撮影時



虐待されていた子を引き取って、あれから十年。癌になったりヘルニアになったり、ワクチンのアレルギーで深夜、病院に駆け込んだりと、色々ありましたが、無事に十二才になりました。馬肉フードモリモリ食べてますヨ。

ワンちゃんのお写真募集中!

メールにて、どんなワンちゃんか一言添えてお送りください。
採用された場合には心ばかりのお礼をお送りします。
info@petfood-kitchen.co.jp



フォローして
ワンちゃん情報やキャンペーン情報をチェック!!



工房スタッフのつぶやき

工房代表 佐野

我が家の娘(モコ)も今年で14歳になりました。年を取って、モコの場合はワンちゃんとの社交性が少なくなってきた感じがしています。

この間も親しげに近づいてきた2匹のチワワちゃんに、「ワン！」と怒るような声で遠ざけてしまいました。昔はフレンドリーだったのですが、

一方で人にはものすごく人懐っこい感じで近寄って行きま。自分を人と思っ

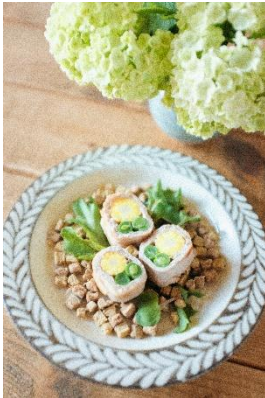


(家でくつろぐ様子) (散歩満喫中)

わんちゃんとうをを楽しむ

第十五回 初夏の野菜

ヤングコーンとインゲン豆の肉巻き



レシピについては、上記の

Instagramから確認してください。

Instagramで動画配信中:
レシピ提案/撮影: yamashita_rei

第三回 行動学的アプローチに基づく歯磨き指導とツールの選択

今回は、多くの飼い主様が苦戦する「実際の歯磨き」について解説します。

■「系統的脱感作」を用いた

トレーニング

歯磨きを嫌がる犬に対し、力づくで制御することは推奨されません。恐怖や不快感が強化され、防衛性攻撃行動(咬みつきなど)を誘発するリスクがあるからです。

推奨されるのは、「系統的脱感作(Systematic Desensitization)」という段々と慣らしていくような手法です。

1. 口元に触れるだけ(数秒)

↓ 報酬を与える

2. 唇をめくるだけ

↓ 報酬を与える

3. 歯ブラシを当てるだけ(動かさない)

↓ 報酬を与える

このように、刺激の強度を段階的に上げながら、各ステップでごほうびを用いることで、歯磨きという行為を「良いこと」と連合学習させることが成功の鍵となります。



■ 解剖学的特徴に適した

「道具の選び方」

正常な犬の歯肉溝(歯と歯茎の間)の深さは、1~3mm程度とされており、ここにブラシの毛先が届く必要があります。人間用の歯ブラシのような毛束が太く、硬い、ヘッドが大きいブラシは、犬の複雑な歯列や頰側の狭いスペースには適さないことが多いです。

以下の条件を満たす歯ブラシの使用を推奨します。

ヘッドの大きさ… 口腔内の操作性を考慮し、極小ヘッドのもの

毛の柔らかさ… 歯肉を傷つけず、ポケット内に到達しやすい極細・軟毛

またブラシをする際には、歯磨きジェルを併用すると良いでしょう。ワンちゃんはどうもできないため、研磨剤を含まない、可食性のものにしてください。ワンちゃんは中毒になってしまうので、ヒト用のキシリトールの含まれたジェルなどは使用しないでください。嗜好性を高めるフレーバー(チキン味やヤギミルク味など)は、上記の学習理論における報酬としても有効な場合があります。



■ 歯磨きの姿勢

診療において歯磨きの姿勢について質問をいただくことがあります。仰向けに寝かせる方法などいろいろありますが、私はおすわりの姿勢で向かい合って磨くことをおすすめします。



ワンちゃんの口の中をよく観察しながら磨いて欲しいと考えており、向かい合った姿勢が最も観察しやすいと感じています。もちろん、今まで他の姿勢で上手くできていた飼主様とワンちゃんは無理に姿勢を変える必要はありませんが、上手くいっていなかった飼主様は、向かい合ってすわる姿勢を試してはいかがでしょうか？

トレーニングを十分積んで慣れているワンちゃんは補助がなくても歯磨き可能ですが、トレーニングを始めればかりのワンちゃんは、我慢しきれず動いてしまうことがあります。その場合は、ご家族の膝の上で支えたり、後ろから抱き抱えてあげてください。

世田谷獣医歯科診療

獣医師 岡田純一



Chap67: フィラリア予防

散歩中に房さんは偶然オウちゃんママとオウちゃんに出会い、「フィラリア検査の帰り」というオウちゃんママの言葉に、房さんは「すっかり忘れていた!」と真つ青に。

慌てて帰宅し、かかりつけの動物病院へすぐに予約を入れました。

その晩、工さんに今日あった出来事を報告。二人は改めてフィラリアという病気の恐ろしさと予防の重要性を話し合いました。フィラリア予防薬は、



毎月1回、1ヶ月間隔で投薬することにより完璧に予防できます。投薬期間は「蚊の発生1ヶ月後から、蚊がいなくなった1ヶ月後まで」が目安。例えば5月から蚊が発生する場合は、6月から年末ぐらいまでは投薬が必要となるそうです。もし途中で投薬を忘れた場合などは自己判断せず、かかりつけの獣医さんに相談することが大切。

また、予防は「お友達を守る」ことにも繋がります。フィラリアが寄生している犬の血液には幼虫がおり、蚊が感染犬からその幼虫を吸い込み、別の犬を刺すことで感染が広がります。つまり、愛犬自身が感染しない・させないことが、地域のワンちゃんたちを守ることになるのです。「叶ちゃんともつちくんの健康のため、そしてお友達のためにも徹底しなきゃね」と気を引き締める二人。季節の変わり目、油断しがちな予防習慣を再確認する大切な夜となりました。

